

(平成20年5月分)

部 門	市況の概要
野 菜	5月期の野菜の入荷状況は、低温や日照不足などで入荷が減少した品目が多く見受けられ、果菜類においては特に不安定な入荷状況となった。また、根菜類においては全国的な品薄状態から前倒し出荷が行われたことが、細物中心の入荷となり、入荷量が減少した品目があった。下旬には果菜類を中心に入荷量は回復したものの、全体としては前年同期を4%下回った。 価格は、入荷状況によって変動し、入荷減となった品目を中心に高値となったが、葉菜類の一部では入荷減でありながら安値が目立つ品目もあり、全体としては前年並みとなった。 品目別には、西洋にんじん、ハウレンソウ、ピーマン、トマト、馬鈴薯が入荷減の単価高、レタス、きゅうりが入荷減の単価安となった。また、ナス、玉葱は入荷前年並みの単価高となり、キャベツは入荷増の単価安であった。 根菜類は、入荷が9%減少し、価格は21%高となった。 葉菜類は、入荷は前年並みで、価格は16%安となった。 果菜類は、入荷は6%減少し、価格は7%高となった。 土物類は、入荷が前年並みで、価格は10%高となった。
果 実	5月期の果実の入荷状況は、加温用重油の高騰によって作付面積の減少したメロン類やスイカ類で入荷の減少が続いており、果実全体の入荷量としては前年同期を9%下回った。 価格は、需要の低迷から全体的に単価は上がらず、前年同期を6%下回る結果となった。 品目別には、甘夏柑が入荷増の単価安となり、アンデスメロンは入荷減の単価高となった。また、アールスメロンにおいては入荷減にもかかわらず単価安となった。 柑橘類は、入荷が11%増加し、価格は26%安となった。 りんご類は、入荷が8%減少し、価格は5%安となった。 いちご類は、入荷が7%減少し、価格は前年並みとなった。 メロン類は、入荷が28%減少し、価格は前年並みとなった。 スイカ類は、入荷が6%減少し、価格は前年並みとなった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長大根	長崎県を中心に，千葉県，福井県からの入荷。各産地とも先月からの好調な相場によって前倒し出荷したことが，細物中心の入荷となり，入荷量は前年同期を４％下回った。 価格は，上旬は高値推移したものの，下旬には品質低下が見られたことで単価安となり，全体としては前年並みであった。
西洋人参	徳島県，長崎県を中心に，兵庫県からの入荷。国産品需要の高まりから極めて好調な相場が続いており，各産地とも前倒し出荷したことが，小物中心の入荷となり，入荷量は前年同期を２０％下回った。 価格は，需要の高い国産品が全国的に品薄状態であることから高値推移し，前年同期を７０％上回った。
【葉菜類】 はくさい	茨城県を中心に，長野県，大分県，京都府からの入荷。全国的な天候不順から不安定な入荷状況となり，入荷量は前年同期を４％下回った。 価格は，入荷状況に応じて変動が大きかったが，全体としては前年並みとなった。
キャベツ	京都府，兵庫県を中心に，愛知県，鹿児島県からの入荷。兵庫県を中心に単価安の影響を受けて入荷が減少したものの，京都府からの入荷が集中したため，全体としては前年同期を４％上回る入荷量となった。 価格は，先月から続く単価安に加えて，京都府からの入荷が集中したことで，前年同期を２８％下回った。
ほうれんそう	岐阜県，京都府，滋賀県を中心とする入荷。岐阜県では上旬の高温によって作柄が悪化し，滋賀県では作付面積の減少によって入荷が減少したことで，入荷量は前年同期を１８％下回った。 価格は，品薄状態が続いていることから高値推移し，前年同期を１３％上回った。
レタス	長野県，兵庫県を中心とする入荷。長野県では４月の高温によって前進出荷となり，上旬は入荷増となったものの，下旬には入荷が減少し，全体の入荷量としては前年同期を５％下回った。 価格は，上旬に入荷が集中したことで単価安に拍車がかかり，下旬には入荷の減少とともに回復してきたものの，結果として前年同期を４３％下回った。

【果菜類】 きゅうり	宮崎県，高知県を中心に，滋賀県からの入荷。5月の高温によって上中旬に入荷が集中したが，下旬には入荷減となって，結果的に入荷量は前年同期を4％下回った。 価格は，需要の低い太物中心の入荷となったことで単価は上がらず，前年同期を7％下回った。
なす	高知県，岡山県を中心とする入荷。各産地とも4月の低温等による生育遅れが見られたが，中央市場の集散機能が発揮され，入荷量は前年並みとなった。 価格は，生育遅れによる全国的な品薄状況から高値で推移し，前年同期を22％上回った。
トマト	熊本県，福岡県を中心に，三重県，京都府，奈良県からの入荷。4月の低温等による生育遅れによって上中旬は入荷減となり，下旬には天候の回復とともに入荷は増加したが，結果として入荷量は前年同期を5％下回った。 価格は，入荷が少なかった上旬は高値で推移し，入荷の回復とともに単価安となったが，全体としては前年同期を4％上回った。
ピーマン	宮崎県を中心に，高知県，茨城県からの入荷。各産地ともに上旬は曇天による日照不足等によって入荷が減少，下旬には入荷は回復したものの，前年同期を5％下回った。 価格は，入荷量の回復とともに単価安となったが，全体としては前年同期を7％上回った。
【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)	長崎県を中心に，鹿児島県，熊本県，北海道からの入荷。各産地とも小玉傾向での入荷となり，入荷量は前年同期を4％下回った。 価格は，小玉傾向での入荷となったことから単価高で推移し，前年同期を8％上回った。
たまねぎ	兵庫県を中心に，長崎県，佐賀県，北海道からの入荷。上旬には大玉主体で品質の良いものが潤沢に入荷し，下旬には入荷が減少したが，入荷量は前年並みとなった。 価格は，品質が良かったことに加えて，下旬に入荷が減少したことで高値となり，前年同期を24％上回った。
【菌茸類】 生しいたけ	徳島県，和歌山県を中心に，広島県，岡山県からの入荷。和歌山県，広島県では生産拡大によって入荷が増加し，全体の入荷量としては前年同期を9％上回った。 価格は，入荷増にも関わらず，前年並みとなった。

主要品目（果実）	市況の概況
甘夏柑	福岡県を中心に、佐賀県、広島県からの入荷。豊作年であり、全体的に小玉傾向ではあるものの、入荷量は前年同期を10%上回った。 価格は、入荷増に加えて、単価の安い小玉傾向での入荷であったことから、前年同期を24%下回った。
ふ　　じ （サン含む）	青森県からの入荷。有袋ふじを中心とする入荷であったが、需要の低迷から単価が上がらず、産地では出荷を控える動きがあったため、入荷量は前年同期を12%下回った。 価格は、入荷減でありながら、前年並みに留まった。
いちご	熊本県、福岡県を中心とする入荷。各産地ともに入荷状況は安定していたものの、入荷量は全体的に少なく、前年同期を7%下回る結果となった。 価格は、入荷減でありながら需要は低迷しており、前年並みに留まった。
アールス	静岡県、熊本県、高知県、宮崎県からの入荷。加温用重油の高騰から生産面積が減少し、入荷量は前年同期を15%下回った。 価格は、入荷減ながら他のメロンとの競合があり、前年同期を15%下回る結果となった。
アンデス	熊本県を中心に、茨城県からの入荷。主産地である熊本県では作付面積を減少したことによって、入荷量は前年同期を46%下回った。 価格は、入荷が極めて減少したものの、活発な引き合いはなく、前年同期を9%上回るにとどまった。
アムス	熊本県を中心とする入荷。作柄は良く、大玉中心の入荷となったことから、入荷量は前年同期を26%上回った。 価格は、入荷増ながら、品質良好な大玉中心の入荷であったため、前年並みとなった。
大玉スイカ	熊本県を中心に、長崎県、愛知県からの入荷。主産地である熊本県では作柄良好ながら、加温用重油の高騰で作付面積を減少したことが影響し、入荷量は前年同期を4%下回った。 価格は、品質は良好であったものの単価は上がらず、概ね前年並みとなった。